



## ゆりかご 園だより

2025.12.1



今年もあっという間に12月ですね。保育園の1年は4月に始まり3月で終わるため12月は1年の中のひと月といえそうですが、何だか気ぜわしく感じてしまうのが12月です。師走とはよく言ったものだとなと毎年のことながら感心してしまいます。11月は市内各所で目撃されたクマたちもそろそろ安心して冬眠できるよう願うばかりです。

普段保育に入る機会が少ないので、なにかと理由をつくっては子どもたちとふれあうようにしています。さくらんぼぐみの子どもたちには夏が過ぎてもお人見知りで泣かれていた園長でしたが、秋も深まる頃になってようやく泣かれなくなってきたので、ひとり心の中でガッツポーズをしています。

0歳児が泣く原因には色々な内面がありますが、私が保育室に入ったときに人見知りで泣かれるのは、いつもいてくれる安心できる大人ではないとわかったことに対する不安な気持ちの表出です。安心できる保育士が部屋から出ていくときに、あと追いをして泣いたりするのも同じく不安な気持ちからきます。

また、生理的な不快を取り除いてほしいことの発信として泣くことも多いと思います。オムツが汚れている、おなかがすいた、この肌ざわりがいやだ、あつい、さむい、眠たいなど様々あります。

子どもが泣くと「早く泣きやませなきゃ」という思いが生じてしまいがちですが、まだ言葉によるコミュニケーションをとることができない0歳児にとって、泣くことは大事なメッセージの発信手段だと思います。なぜ泣いているのかを分かってくれ、受けとめてもらえることで、この人は安心できる人だと分かり、より関係が深まっていくので、いっしょに子どものメッセージを探っていけるとよいですね。

お子さんの年齢を問わず、ふとした瞬間に子育てがしんどくなることはみなさんにも経験があるかと思います。日常的に声をかけあう習慣があれば、ふとしたひと言ですくわれることがありますよね。これからも職員や保護者同士がそんな関係を大切にしていきたいですね。

